

RISC-V(3)

UART でプログラムとデータを流し込んで実行できるようなメタ機能を追加。
これでリソース使用量とは配線遅延とかをきっちり見積れるようになったかな。
ついでに、RV32I に必要な演算を幾つか実装。
次は、シフト / 掛け算 / 割り算あたりの実装をしよう。

一言メモ

- ・ 読んだ - SLIDE : IN DEFENSE OF SMART ALGORITHMS OVER HARDWARE ACCELERATION FOR LARGE-SCALE DEEP LEARNING SYSTEMS
 - ・ 全結合な DNN に対して、LSH 使って考慮すべきニューロンを選んで計算量減らすよ、という話、なのか？
 - ・ C++ による実装 . 44 コアで V100 の 3.5 倍 , TF の 16 倍高速 , という事らしい .